

第8回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路築造工事に係る河川河口の環境アドバイザー会議

(令和元年12月19日開催)

主な意見、指摘事項と対応について

1. 環境対策の現況報告

意見・指摘事項	対応
現地の干潟の底質は大きく変化したが、仮置き土は干潟の代表的な土として埋め戻すべき。仮置き土を埋め戻すと、周辺から底生生物も侵入すると考えられる。埋め戻し後の底質と底生生物の変化をモニタリングすること。	仮置き土は当初の予定通り、干潟表土として埋め戻します。 また、埋め戻し後の干潟についても引き続き調査します。

2. 令和元年度春季定期環境モニタリング調査実施状況報告

意見・指摘事項	対応
<水質・水象> ロガーデータにおいて、7月後半から8月にかけて、上層もD0が頻繁に0mg/lになっている。塩分も全体的に高く、昨年度にはみられなかった現象である。ロガー計の固定位置と潮位・塩分躍層の影響と思われる。工事の影響ではないと考えられるが注意すること。 6月後半等に下層の塩分が不自然に低下しているが、小潮時は塩分が高いはずなので、データを確認すること。	ロガーの固定位置について、干潮時でも計測できるA.P.+0.5mに設置しています。その結果、潮位変動の少ない小潮の上げ潮時に下層の貧酸素水の影響を受けていると考えられます。 この現象を考慮して今後計測を続けていきます。 下層の塩分データについてデータを検証した結果、6月以降の結果は異常値が連続しており、8月にはメーカー提示期間より早くバッテリー切れになるなど機器の故障による異常値と考えられる。今後、機器の交換を適正に行います。
<干潟地形・広域調査> 台風第19号の影響により矢板の周辺が浸食されているように見える。	台風19号による出水の影響により浸食されたと思われます。現地の状況を整理するとともに、引き続き調査し、経過を確認します。
<干潟地形・干潟調査> 干潟地形変化(平面図)では、出水後は日付の記述があるため、出水前の日付も記述すること。	日付を記載しました。
<魚類・底生生物> 台風直後の調査結果より、底生生物相は、比較的早期に回復すると予想される。今後の調査では、典型種の回復状況について経時変化を確認すること。	引き続き調査を継続し、確認します。

以上